

# 株式会社ニッセーデリカ

## 2022 年度 環境経営レポート

(対象期間 2022 年4月1日～ 2023年3月31日 )



エコアクション21<sup>®</sup>  
認証番号0013383



NISSEY  
DELICA CORP.

作成日： 2023年8月31日

## 目 次

項 目	ページ
環境経営方針	3
組織の概要、事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	10



# 環境経営方針

## <環境経営理念>

「わたしたちは 新しい価値の創造を通して 幸せを実現し 社会の発展に貢献します」を企業理念とし、新しい麺文化の創造を目的に安全・安心でおいしい調理麺の生産を通じて、笑顔あふれる暮らしづくりに努めてまいりました。

これからもわたしたちの事業活動による社会への影響を意識し、世界的課題である地球環境を守り、持続可能な暮らしづくりに自主的・積極的に取り組みます。

安全・安心な製品をお客様に届けるため、働きやすい職場づくりを進める中で、創意工夫による食品安全管理の徹底と効率的な生産を目指して、全社一丸となって継続的な改善活動に取り組みます。

## <環境保全への行動指針>

1. 安全を第一に考え、ルールを守り、効率的に商品の開発と製造を行います。
2. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
3. 廃棄・再生産対策を実行し、フードロスの発生抑制に努めます。
4. 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
5. 従業員を大切にし、環境に優しい働きやすい職場づくりを推進します。
6. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
7. 洗浄剤や殺菌剤など適正管理に努めます。
8. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日：2020年1月1日

代表取締役社長 川手 康正

## □組織の概要

更新日：2023年8月31日

### (1) 名称及び代表者名

株式会社ニッセーデリカ  
代表取締役社長 川手 康正

### (2) 所在地

本社 東京都千代田区外神田4-5-4 亀松ビル10F  
神奈川工場 神奈川県相模原市緑区根小屋814-9  
湘南工場 神奈川県足柄上郡中井町境818  
千葉工場 千葉県富里市日吉倉1422-1  
福島工場 福島県福島市瀬上町東上新田4-6  
名古屋工場 愛知県豊田市大清水町大清水111-1

### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 製造本部長 吉田 輝彦 TEL：03-3253-6411  
事務局 設備管理部 大西 隆仁 TEL：03-3253-6411

### (4) 事業内容

麺類の製造

### (5) 事業の規模

	従業員	延べ床面積
本社	51名	294.6m <sup>2</sup>
神奈川工場	634名	8513m <sup>2</sup>
湘南工場	357名	7897.87m <sup>2</sup>
千葉工場	852名	10539.26m <sup>2</sup>
福島工場	473名	9389.52m <sup>2</sup>
名古屋工場	475名	7508m <sup>2</sup>
合計	2842名	44142.25m <sup>2</sup>

※2023/3/31時点

### (6) 事業年度

4月1日～3月31日

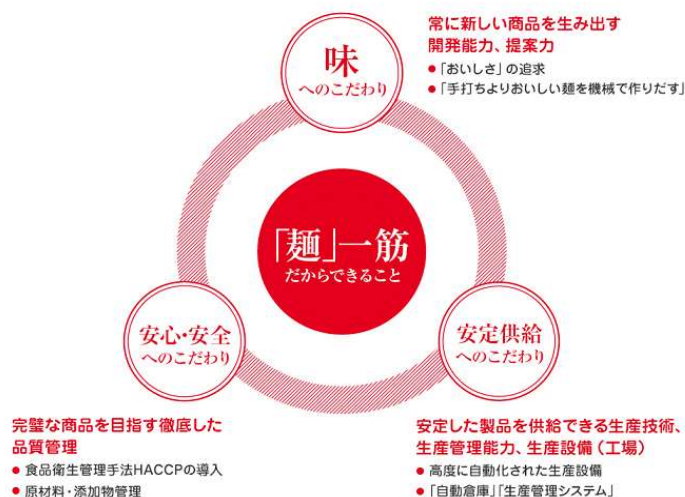
## □認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社ニッセーデリカ  
対象事業所：本社  
神奈川工場  
湘南工場  
千葉工場  
福島工場  
名古屋工場

活動：麺類の製造

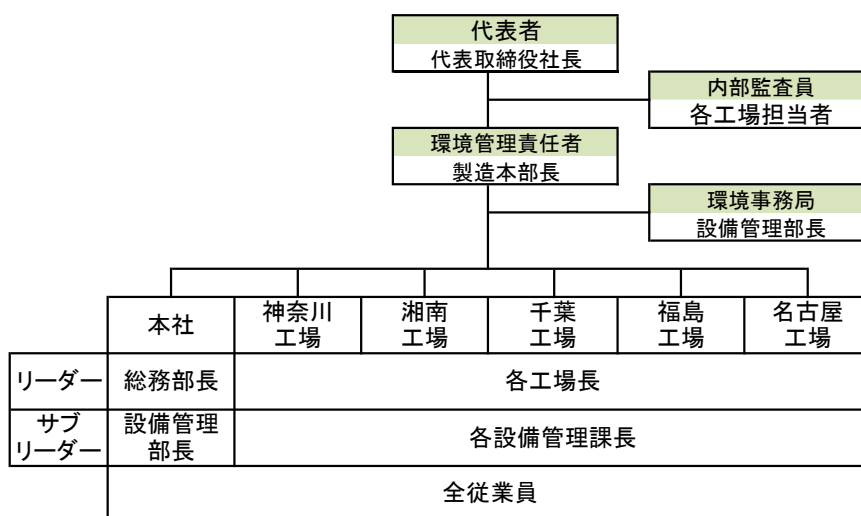


## □事業や製品(商品)の紹介



### <取り扱い商品>





	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>効果的で必要十分な実施体制を構築する</li> <li>実施体制においては、各自の役割、責任及び権限を定め、全従業員に周知する</li> <li>環境経営方針の策定・見直し</li> <li>環境経営目標・環境経営計画書を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直し、指示</li> <li>環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>環境経営目標・環境経営計画書を確認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、の事務局</li> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>環境活動の実績集計</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
部門長 工場長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境経営方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に関する内部監査の計画</li> <li>環境に関する内部監査の実施・報告</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## □主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年	2021年	2022年
二酸化炭素総排出量	t-CO <sub>2</sub>	32,723	34,360	32,880
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	t	773	618	275
産業廃棄物排出量 (廃プラ、汚泥)	t	3,018	3,124	2,734
食品廃棄物				
発生量	t	3,857	3,941	3,974
発生抑制量		0	0	0
再生利用量		3,572	3,656	3,889
熱回収量		0	0	0
減量量		0	0	6
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		286	285	80
食品再資源化実施率		%	92.6%	92.8%
水使用量	m <sup>3</sup>	1,826,597	1,808,492	1,752,529

※二酸化炭素排出係数 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) 電気事業社別排出係数使用

拠点	2022年度	電気事業社
神奈川工場	0.457	東京電力
湘南工場		
千葉工場		
福島工場	0.496	東北電力
名古屋工場	0.449	中部電力
本社	0.522	オリックス

## □環境経営目標及びその実績

項目	年度	基準値 (基準年)	2022年		評価	2023年 (目標)	2024年 (目標)
			(目標)	(実績)			
電力による二酸化炭素削減	t-CO <sub>2</sub>	19,501	16,290	16,378	×	15,990	15,600
	基準年度比		83.5%	84.0%		82%	80%
ガスによる二酸化炭素削減	t-CO <sub>2</sub>	17,384	17,169	16,055	○	14,950	14,602
	基準年度比		98.8%	92.4%		86%	84%
自動車燃料による二酸化炭素削減	t-CO <sub>2</sub>	304	432	447	×	249	243
	基準年度比		142%	147.2%		82%	80%
上記二酸化炭素排出量合計	t-CO <sub>2</sub>	37,188	33,891	32,880	○	30,940	30,203
	基準年度比		91%	88.4%			
一般廃棄物の削減	t	780	652	275	○	640	624
	基準年度比		84%	35.3%		82%	80%
廃プラの削減	t	1,151	1,150	1,061	○	944	921
	基準年度比		100%	92.2%		82%	80%
食品廃棄物の削減	t	3,857	3,810	3,974	×	3,317	3,240
	基準年度比		99%	103.0%		86%	84%
食品廃棄物の再生利用率向上	自主目標	96%	97%	98.0%	○	98%	98%
	食り法目標		80%		○		
水の削減	m <sup>3</sup>	1,847,508	2,622,472	1,752,529	○	1,514,956	1,478,006
	基準年度比		142%	94.9%		82%	80%
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P R T R 物質の把握</li> <li>・出庫管理による使用量把握徹底</li> </ul>						
環境に配慮した生産活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本社主体での全工場歩留まり管理</li> <li>・廃棄再生産管理・削減活動による食品・エネルギーロス削減</li> </ul>						

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

項目	拠点	目標	実績	評価	取組結果	次年度取り組み
電力による二酸化炭素削減	神奈川	3,289	3,255	○	・チラー稼働台数夏季削減取組 ・室温モニタリング異常時早期対応 ・清掃時生産設備停止させて不要稼働削減	・LED照明に交換 ・チラー設備更新
	湘南	2,474	2,475	×	・空調室外機フィン清掃実施 ・生産終了後の省エネ管理	・LED照明に交換 ・空調機更新
	千葉	4,911	4,774	○	・空調機更新 ・チラー設備1台更新	・LED照明に交換 ・空調機更新
	福島	3,081	3,018	○	・12月～3月節電強化月間として工場全体の活動として実施 ・CO2排出係数増0.476→0.496に増加	・製造終了後の設備、空調停止活動 ・機器別使用電力計設置
	名古屋	2,498	2,821	×	・麺系統1次冷却チラー更新実施 ・CO2排出係数0.407→0.449に増加	・空調機、エアハン用チラー更新 ・機器別使用電力計設置
	本社	37	36	○	・会議室退出時の消灯徹底 ・CO2排出係数増0.336→0.522に大幅増	・不要照明の消灯徹底
ガスによる二酸化炭素削減	神奈川	3,656	3,308	○	・蒸気配管エコジャケット設置 ・毎月蒸気漏れ箇所現場巡回し早期発見、修繕対応	・ボイラー保温設置
	湘南	2,272	2,147	○	・蒸気配管エコジャケット設置 ・茹で機排熱回収1台設置	・茹で機排熱回収増設
	千葉	5,701	5,200	○	・蒸気配管エコジャケット設置 ・毎月蒸気漏れ箇所現場巡回し早期発見、修繕対応	・ボイラー更新
	福島	2,958	2,737	○	・自動昇温機能設定定期確認	・ボイラー室、蒸気配管エコジャケット設置 ・茹で機排熱回収設置
	名古屋	2,707	2,663	○	・蒸気配管エコジャケット設置 ・茹で機遮熱カバー設置	・ボイラー保温設置 ・茹で機排熱回収設置
	本社					

自動車燃料による二酸化炭素削減	神奈川	194	190	○	・社用車HV車に入れ替え	・人数制限解除による送迎効率アップ
	湘南	40	47	×	・送迎委託→自社対応に変更し増加	・人数制限解除による送迎効率アップ
	千葉	57	63	×	・送迎回数増による使用量増加 ・コロナ規制なくなり出張増	・人数制限解除による送迎効率アップ
	福島	89	101	×	・送迎回数増による使用量増加	・人数制限解除による送迎効率アップ
	名古屋	13	15	×	・送迎回数増による使用量増加 ・送迎車両のアイドリングストップ実施	・人数制限解除による送迎効率アップ
	本社	39	32	○	・社用車HV車に入れ替え ・安全運転指導の実施	・社用車HV車に入れ替え ・安全運転指導の実施
一般廃棄物の削減	神奈川					
	湘南	271	78	○	・一部業者変更によりリサイクル化になり削減(廃プラ、食品廃棄物)	・排出内容詳細調査
	千葉					
	福島	262	193	○	・21年度取り組んだ残渣ゴミ分別継続による削減	・排出内容詳細調査
	名古屋	6	5	○	・古紙分別徹底	・古紙分別継続
	本社				・排出袋数管理継続 ・会議での資料配布せず画面共有で実施	・分別徹底
廃プラの削減	神奈川	264	255	○	・コンプレッサーエアードレン量改善(ドレンポット増設、エアードライヤー増強) エア―機器動作安定化による不良削減	・包装不良削減活動 ・排出内容分類調査
	湘南	118	140	×	・一般廃棄物リサイクル化による増加	・包装不良削減活動 ・分別強化
	千葉	400	349	○	・包装不良削減活動 ・付着残渣分別による削減	・包装不良削減活動 ・分別強化
	福島	149	143	○	・包装不良削減活動	・包装不良削減活動 ・排出内容分類調査
	名古屋	219	175	○	・包装不良削減活動 ・印刷帳票プラ、紙の分別実施	・包装不良削減活動 ・分別強化
	本社				・排出袋数管理継続	・ゴミ分別教育



食品廃棄物の削減	神奈川	904	914	×	・再生産削減(機械トラブル無いようメンテ強化、	・再生産削減活動(製造由来、機械トラブル等)
	湘南	543	648	×	・一般廃棄物リサイクル化による増加 再資源化率は向上 ・減容機導入	・再生産削減活動(製造由来、機械トラブル等) ・減容機使用継続
	千葉	1,159	1,252	×	・廃プラ付着残渣分別による増加	・再生産削減活動(製造由来、機械トラブル等)
	福島	491	547	×	・21年度より取り組み継続中の一般廃棄物分別による増加	・再生産削減活動(製造由来、機械トラブル等) ・減容機導入
	名古屋	636	613	○	・終売品用原材料の在庫管理による廃棄量削減	・再生産削減活動(製造由来、機械トラブル等)
	本社					
水の削減	神奈川	330,473	324,944	○	・設備給水、排水部品の点検強化不具合あった部品を交換しロス削減 ・生産数に伴い茹で機稼働台数1台削減	・流量計設置による使用量把握
	湘南	276,474	258,542	○	・蒸気ドレントラップ撤去による冷却用水削減	・流量計設置による使用量把握
	千葉	528,452	521,113	○	・清掃作業、製造時の使用量節水定期アナウンス	・流量計設置による使用量把握
	福島	308,965	305,023	○	・清掃作業、製造時の使用量節水アナウンス	・流量計設置による使用量把握
	名古屋	346,652	342,401	○	・流量計設置、機器別傾向調査開始	・流量計データ比較による使用量増減管理
	本社	553	506	○	・給湯室での表示による注意喚起	・在宅勤務解除もあり改めて全体にアナウンス
化学物質の適正管理	神奈川				・在庫管理徹底 ・使用薬品他工場と統一化2種変更	リスクアセスメント教育受講 SDS最新版管理
	湘南				・在庫管理徹底	リスクアセスメント教育受講 SDS最新版管理
	千葉				・在庫管理徹底	リスクアセスメント教育受講 SDS最新版管理
	福島				・在庫管理徹底	リスクアセスメント教育受講 SDS最新版管理
	名古屋				・在庫管理徹底	リスクアセスメント教育受講 SDS最新版管理
	本社					

**□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無**

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ、汚泥等）
食品リサイクル法	食品廃棄物
容器包装リサイクル法	容器包装
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
水質汚濁法	煮湯設備、洗浄設備
下水道法	除害施設
浄化槽法	浄化槽
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
省エネ法	特定事業所

- ・環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
- ・食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率（80%）は達成しています。
- ・なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

**□代表者による全体の評価と見直し・指示**

実施日：2023年8月31日

項目	変更・見直し	指示・補足等
環境方針	なし	
環境目標	なし	
実施体制等	なし	
総括	<p>(1) 全体評価                      エコアクション21への取り組みを行うことで、環境負荷抑制や社会の環境保全に全社一丸となって取り組み、「環境経営」の推進による企業価値向上が出来ました。各拠点ごとに目標に向かうことで、環境意識を高める事が出来たと思います。特に水の削減は全拠点での達成が出来た事は、今期の成果の一つと考えています。</p> <p>(2) 個別評価                      ・電力に関しては、未達の拠点に関しては、機器の見直し等、次年度取り組み強化を進めて参ります。                      ・ガスに関しては、全拠点での目標値をクリアし、次年度は高い目標に向かいチャレンジしたいと思います。                      ・食品残渣に関しては、ほとんどクリアならず、あらためて分別の強化と生産由来の残渣削減に取り組めます。                      ・水の削減に関しては、各拠点でクリア。                      ●今後も引き続き、【エコアクション21】の取り組みを通して、環境経営計画を全従業員に周知徹底を進め、環境負荷改善活動を実施して参ります。</p>	